

頑張れ店長

時代は変わったが

業界を取り巻く環境は厳しく、状況も流動的です。ここは原点に立ち返って、戦後の焼け野原の中から勃興したパチンコは庶民の娯楽としてたちまち花開き、時代の荒波を受けながらも関係者の熱意と技術の進歩によって発展してきました、あのエネルギーを思い起こすことです。あのパワーはなにか、店長さんたちに改めて尋ねました。

老夫婦が午後の楽しみに

「週に1、2回は決まって午後2時頃に来店する70歳前後のご夫婦がいます。いつも1円パチンコのコーナーで2人並んでプレーします。勝ったときは仲良く相談しながら景品コーナーで何をもち帰ろうか選んでいます。私が『仲がよくて羨ましいですね』と声をかけると、『主人がニコニコしながら『共通の趣味ができてよかったですよ』と言います。奥さんは『主人が定年退職で家にこもっているの、たまには外で遊んだらと勧め

るとパチンコに行き始めました。それで私も付いて行ったら面白かったの』と、2人でパチンコをするようになった経緯を語ってくれました。こういうお客様がもっと増えてくれたら有り難いです」

関東・A店長

A店長はこうしたご夫婦の来店を促そうと、カップル限定の「ペアシート」を設置することを検討しているそうです。

昔は「2円」が高かった

「60代の常連さんが言うには、子どもの頃、よく親に連れられてパチンコをしたそうです。その頃は子連れ客が少なくなかったそうです。当時は玉を1個ずつ入れて打つチューリップが全盛で、勝つとチョコレートやキャラメル、缶詰など戦利品を抱えて、誇らしげに帰宅したといえます。そして『考えてみたら、その頃の貸玉料金は2円だったから、今の1円パチンコより高かったんだね』と付け加えま

す」(中部・B店長)

50年以上前から大衆娯楽として親しまれていたパチンコ。どんなに時代が変わってもパチンコは生き残るとB店長は言います。

老人ホームが2台購入

「店では私が赴任する前から店休日近所の老人ホームの入所者を招待してパチンコ大会を開いています。それで最近、入所者の希望が強いので老人ホームにもパチンコを設置したいという相談を受けました。私がゲームセンターで使っているパチンコを勧め、業者を紹介したところ、さっそく2台入れたそうです。順番待ちができるほどの人気で、老人ホームに活気が出てきたと喜んでいきます。パチンコ大会を目指して練習している人もいます」(中部・C店長)

マヒした手の機能回復にパチンコが有効と

いう研究もあるので、家庭向けの遊技機もいけそうです。

怖いお兄さんがいて

「パチンコ歴50年という常連さん

店長からの投書

私の店は商店街に立地しているので、地域振興に努めています。たとえば、休憩コーナーに地域情報掲示板を設けて、近隣店の「お買い得情報」や「期間限定サービス」を掲示しています。ホールは集客力があり、お客様の滞在時間も長いので意外に効果があります。また、ホールで使う備品は商店街の店から購入することにして、店のスタッフも昼食や夕食は商店街の食堂へ食べに行ったり、総菜店で弁当を買ってきます。商店街の付き合いは「持ちつ持たれつ」というところがあって、そのお返しにときどきホールに遊びに来てくれます。夏休みの盆踊りにはスタッフを派遣して、会場の設営や交通整理もしています。郊外店では難しいですが、近くに商店街があればホールが貢献できる地域振興はいろいろありそうです。(関東・店長)

近くの商店街と日常のお付き合い お互いメリット

がいます。おしゃべりが好きな人で、よく話を聞かせてくれます。昔はパチンコ店といえば怖いお兄さんがやっていて、パチプロが来れば『おたくは出入り禁止と言われたでしょう。ほかのお客様の迷惑になるから帰った、帰った』と追い返し、客を客とも思わない店員が多かったそうです。『兄ちゃん、その頃に比べれば今のパチンコ店は天国だよ』と持ち上げま

すが、『でも客に甘く見られるところがあるな。いざというときはガツンとやらなきゃあ』と釘を刺します」(関東・D店長)

この常連さんは、業界あげての接客マナー向上を評価するものの、少し不満もあるようです。

孤独だったが店で働き

「私自身、学生時代は勉学に興味を持たず、友人もない孤独な毎日を過ごしていました。そんな寂しさを紛らわせてくれたのが学校の近くのパチンコ店で、週に1、2回通っていました。ホールでアルバイトをすることになり、店員としてお客さんを観察すると、世の中には様々な人がいますが、ホールでは肩書きも出身も関係なく誰もが平等です。一気に世界が広がったような気がしました。就職では迷わずホール企業を選びました。皆が平等に遊べるホールをこれからも守り育てたいです」(中部・E店長)

E店長がホールで学んだことは、アルバイトを含めた若い人たちに伝えたいと言います。

運試しするセールスマン

「決まって週末に来店する常連さんは車のセールスマンですが、パ

チンコやパチスロで翌週の運試しをするそうです。大勝ちすると不思議に契約がすんなりまとまるので強気で押すそうです。逆に負けるときは営業でも空振りすることが多く、そういうときは地道に訪問を重ねて、将来の成約に結びつく地固めをするのだそうです。『パチンコやパチスロは勝ち負けがはっきりしているから運試しにいいんです』とその常連さんは言います」(中国・E店長)

運気は波があるので、それを週末のホールで感じ取ろうというのです。

勝つコツは諦めないこと

「私に言わせれば勝つコツは簡単で、勝つまで諦めないことです。もう少し付け加えると、負けるときは深入りせずに3千円とか5千円で切り上げ、勝ち始めたら時間無制限でガンガン行くのです。つまり、小さく負けて大きく勝てば、5勝10敗でも実質的に大勝ちするわけです。その通りに遊ぶようになってから、トータルで勝てるようになっていったという人が多いですよ」(関東・G店長)

改めて見直したいパチンコ・パチスロの原点。あなたの場合の原点はありますか？